

# トップコミットメント

## 近代文明の発展のために 地球環境は限界点を迎えています

私は最近、地球環境は限界点に達してきたのではないかという気がしています。歴史を振り返ると、人類の歴史における自然とのかかわり方には2種類あります。一つは、自然とは共存すべきであると考え、そのための工夫をしてきた文化と、もう一つはその反対で自然と闘ってきた歴史です。近代は後者がより極端になり、自然を克服して破壊するほどになりました。結果として、先進国を中心とする近代文明の発達に地球環境を酷使し、容量の限界を迎えつつあるのだと思います。

しかし、近代文明の発達は一方で、私たちに環境の大切さを気づかせてくれるきっかけも与えてくれました。例えば、人が宇宙まで行けるようになった結果、客観的な目で、地球がちょっとしたことで壊れやすいものであることを皆が知ることができるようになりました。

地球環境がいよいよ安定維持できなくなった今、人類が蓄積してきた知見や自然と共生してきた知恵を生かして、なんとかこの問題を解決していくことが必要です。

## 今後、半導体の役割が拡大していきます 私たちは、地球環境に優しい、最先端製造プロセス、 半導体製造装置を提供します

環境問題を解決する上での課題の一つは、これから経済が発展し、生活を向上していこうとしている新興工業国の発展のあり方です。環境をさらに悪化させないような発展のしかたが必要です。半導体生産の中心はこれまでのアメリカや日本から、現在はアジアへと展開していますが、今後はさらに新興国に移っていくと考えられます。ですから、こうした国が半導体産業を自国内に育成しようとする際には、EHS\*を充分盛り込み、環境を守りながら経済発展を進めることが必須です。環境負荷が少なく、経済性も生産性も高い装置や技術を提供することが、当社グループの使命だと考えています。

安全面についても同じです。安全への配慮が二の次になることがないように、装置とあわせて安全対策の方法も伝えていきたいと思っています。

いわゆるコビキタス社会が幕を開けようとしています。今後は半導体技術を使ったさまざまなデバイスが社会の隅々にまで浸透し、それらは社会を効率化し、各方面での環境負荷を下げることに使われていくことと思います。

一方、上のような次世代の半導体をつくるという面では、半導体メーカーはソフト開発や設計に重点を移行しつつあり、半導体製造プロセス技術の開発は、次第に装置・材料メーカーが担うことが社会的な要請となってきました。

当社グループは、地球環境に優しい最先端製造プロセスの提供を通じて、地球環境と人間とが共存する社会づくりに貢献していきます。

※EHS：Environment, Health and Safety（環境・健康・安全）

## 半導体やFPDが社会の基盤になるにつれて、 製造装置メーカーの使命は 重くなっていきます

東京エレクトロン株式会社  
代表取締役会長兼CEO

東 啓 郎

## 高性能な半導体を高効率で製造する装置を提供することが東京エレクトロングループの使命です

2007年1月、ダボス会議<sup>※1</sup>に参加してきました。地球温暖化をテーマとしたセッションが大きな比重をもって数多く開催され、この問題が国際的に大きな関心事となっていることを肌で感じました。改めて思うことは、地球温暖化の解決に最も大きな役割を果たすのは技術力だということです。今後、この問題解決のために、抜本的な技術革新が求められるものと思います。

半導体については、私たちが高性能かつ環境効率の良い半導体を安価でつくる製造装置を提供し、それを使って生産された半導体が、電子機器や自動車などに組み込まれることによって消費電力を低減し、世界の温暖化問題解決に貢献する、ということが社会から求められることでしょう。

今後、パワー半導体などの省エネルギー化に用いるデバイスや太陽光パネルなどによって電力使用量削減に貢献しようとする企業に積極的に協力していきたいと思います。

一方で、私たちの本業である半導体製造装置の省エネルギー化については、使用時の環境負荷を下げるのが基本条件の一つである、という意識が開発者の中で相当浸透してきました。環境と同様に重要な要素である安全配慮設計とともに、これらを基本的業務として進めていきます。

環境と安全については、業界全体の水準を上げることも極めて重要です。ダボス会議には、海外の大手半導体製造装置メーカーのトップも参加していました。SEMI<sup>※2</sup>を積極的に支援して、環境や安全に関する技術を業界全体で共有できるようにしていこうと話しました。

## 装置の省エネルギー化を進めることで、お客様の半導体開発を側面から支援していきます

東京エレクトロン株式会社  
代表取締役社長兼COO

佐藤 潔

## 私たちの装置の性能を飛躍的に上げ、広くは途上国の発展にも貢献したいと思います

世界的に見れば、途上国の発展という上でも、半導体が果たす役割は大きいのではないのでしょうか。ソフトを中心としたIT事業であれば少額の投資でも起業を行うことができます。また、パソコンなど半導体を用いた通信機器や技術を用いれば、途上国でも多くの人が距離や時間に関係なく学ぶことができます。こういった環境ができるには、半導体がさらに普及することが非常に重要だと思います。

それには半導体の価格を相当下げなければなりません。お客様が利益を得る仕組みは必要です。そのために、私たちは装置の性能向上で力を尽くしたい。

このようなかたちで社会に貢献できる半導体産業に身を置いていることは、東京エレクトロンにとって大きな誇りではないかと思います。

※1 **ダボス会議**：世界経済フォーラム（World Economic Forum）。スイスのダボスで開催される。世界の企業経営者、政治家、エコノミストが集い、グローバルな政治経済について議論する場として知られる。

※2 **SEMI (Semiconductor Equipment and Materials International)**：半導体/FPD製造装置と材料メーカーの国際的業界団体

